札幌市立高等学校学校医の活動推進と問題点の検討
―耳鼻咽喉科学校健診結果と学校医活動―

札幌市医師会/札幌市学校医協議会/札幌市耳鼻咽喉科医会
高木　摂夫、岡村　暁子、新谷　朋子、佐野　宏行

【はじめに】

現在札幌市の高等学校は　市立校、道立校、私立校の合わせて約４万人の高校生がおり、市立の高等学校については平成14年（2002年）より耳鼻咽喉科学校医が配置され、耳鼻咽喉科の健診等の学校保健活動を行っているが、他の高等学校における耳鼻咽喉科の保健管理については今後の課題となっている。

今回、市立の高等学校の健診結果より札幌市の高校生の耳鼻咽喉科疾患の状態を推測するとともに、今後の活動に役立てることを目的として、高校生の耳鼻咽喉科健診の在り方について、現在担当している耳鼻咽喉科学校医に意見を聞くことができたので整理して報告する。

【札幌市立高校生の耳鼻咽喉科学校健診結果】

札幌市立の高校生の耳鼻咽喉科学校健診は小中学校と同様の形式にて高校１年生の全員のみに行われ、聴力検査は１学年と３学年について行われている。その健診結果については、市教育委員会によって作成された健康管理表に記載され保存されている。また各学校において開催されている学校保健委員会には、耳鼻咽喉科学校医も出席し学校保健活動に参加している。

昨年度（令和６年度）の耳鼻咽喉科健診結果について札幌市立高等学校の調査を行い、高等養護学校を除いた８校中７校より返答が得られた。その結果は耳鼻咽喉科健診受検者数は1,849名で、そのうち有所見者数は203名、11.0％であった。有所見者の内訳は、①耳疾患93名（5.0％）、②鼻・副鼻腔疾患 100名（5.4％）③咽頭疾患　３名（0.2％）であった。また聴力検査の有所見者は１学年　６名（0.3％）、３学年６名（0.3％）であった（表）。

文科省の令和４年度学校保健統計調査公表値（平成24～令和４年度）によると、高校生の耳疾患の有所率は1.88～2.87％、鼻・副鼻腔疾患は6.88～9.92％と報告されており、札幌市立の高校は耳疾患がやや多く、鼻・副鼻腔疾患がやや少ない傾向にあると思われた。

【学校医の意見】

高校生の耳鼻咽喉科健診の現状と在り方について耳鼻咽喉科学校医に意見を求めた結果、以下のような多様な意見が得られた。

１．健診対象学年についての意見

・現状のままで特に問題はなく、１年生全員を対象とする現行方式が妥当である。
・１年生は全員を対象とし、２・３年生については有症状者に限定すべき。
・抽出された生徒のみを対象とする方法が望ましい。
・予算や人員の制約を考慮すると、入学時の１年生のみを対象とするのが現実的である。
・抽出方法が難しいため、全員に実施すべき。

２．所要時間について

健診に要する時間については、健診生徒数134名～319名の学校があり、1.5時間～3.5時間との回答であった。学校現場での実施可能性を踏まえた時間内で行われていることがうかがえた。

３．検診スタイルについて

検診の実施方法に関しては、以下のような意見が寄せられた。

・小中学校と同様の形式で問題ないとの意見。
・高校生に適した独自の検診方法を検討すべきとの提案。
・希望者に対して医療相談的な形式を導入することも検討に値するとの意見。

４．その他の感想・意見

健診を実施する中で得られた感想や提案として、以下のような意見が挙げられた。

・高校生では有所見者が少ないため、耳鼻科健診の必要性に疑問を感じることがある。
・所見のある生徒の多くが病状を自覚していたため、希望者を中心に、担任教師の推薦を加えた抽出方式が適している可能性がある。
・都市部の高校生は自主的な受診が可能であることから、健診の在り方を見直す余地がある。
・慢性的な鼻閉など、自覚症状が乏しい疾患もあるため、健診による指摘には一定の価値がある。
・鼻・副鼻腔疾患はQOLを低下させ、学習への影響も懸念されるため、受診のきっかけとして健診を活用す

べきとの意見。
・保護者への健診結果の通知は、家庭との連携を図るうえで有意義である。
・男女混合での健診において、男子生徒の存在を気にする女子生徒もいるとの指摘があり、配慮が求められる。
・ピアスをしている生徒も多く、個々の価値観や多様性への理解が必要である。
・所見のある生徒に対して自覚症状の有無を確認することで、より効果的な保健指導が可能となる。

【まとめ】

今回の調査において、札幌市の高校生においては耳疾患が多い可能性があり、この点についてさらに調査し、その結果に基づいた対応を耳鼻咽喉科学校保健活動に活かしたい。

また、高校生の健診については、小中学校と同様の形式で十分との声がある一方で、希望者中心の抽出方式や医療相談の導入など、より柔軟で個別性を重視した対応を求める意見もあり、男女混合への配慮、多様性への理解などを含め検討の余地があると思われた。

令和6年度　札幌市立高等学校健診結果

耳鼻咽喉科健診数	1849名	
有所見者数	203名	11.0%
耳疾患	93名	5.0%
鼻・副鼻腔疾患	100名	5.4%
咽頭疾患	3名	0.2%
聴力検査有所見者数		
1年生	6名	0.3%
3年生	6名	0.3%